

2 法適用企業

(1) 決算総額

(単位：百万円)

区 分	26年度	25年度	前年度比較	
			増減額	増減率 (%)
総 収 益	37,339.9	32,609.9	4,730.0	14.5
総 費 用	40,426.0	32,608.3	7,817.7	24.0
純 損 益	△3,086.1	1.6	△3,087.7	—

(2) 事業別決算状況

(単位：百万円)

区 分	純損益		累積欠損金		
		赤字事業数		累積欠損事業数	
上 水 道	△1,253.8	6	384.5	4	
工業用水道	△4.8	1	0	0	
下 水 道	公共下水	△38.5	1	1,400.0	1
	特環下水	105.4	0	0	0
	農集	204.0	0	0	0
	漁集	0.1	0	0	0
	林集	0.0	0	0	0
	小規模	3.1	0	0	0
	下水道計	274.1	1	1,400.0	1
病 院	△1,988.4	4	13,210.1	4	
観光施設 (休養宿泊)	△113.2	1	886.1	1	
合 計	△3,086.1	13	15,880.7	10	

ア 収益的収支が黒字の事業数は15、赤字の事業数は13

純損益は、△30億86百万円 (対前年度 △30億88百万円)

- ・法適用企業28事業の収益的収支のうち15事業が黒字、13事業が赤字となっている。赤字事業の内訳は、上水道事業6、下水道事業1、病院事業4、観光施設事業1である。
- ・収益的収支の黒字額が最大であるのは、鳥取市下水道事業 (農業集落) の2億4百万円。一方、赤字額が最大であるのは、鳥取市病院事業の△18億44百万円となっている。

イ 累積欠損金は158億81百万円 (対前年度 +13億37百万円、9.2%の増)

- ・累積欠損金を有するのは10事業であり、その金額の内訳は、病院事業が132億10百万円 (83.2%)、下水道事業が14億0百万円 (8.8%)、観光施設事業が8億86百万円 (5.6%)、上水道事業が3億85百万円 (2.4%)、となっている。
- ・累積欠損金額が最大であるのは、鳥取市病院事業の81億9百万円となっている。

ウ 企業債発行額は45億21百万円 (対前年度 △13億13百万円、22.5%の減)

- ・企業債発行額の内訳は、上水道事業が22億41百万円 (49.6%)、下水道事業が18億3百万円 (39.9%)、病院事業が4億77百万円 (10.5%) となっている。
- ・企業債発行額が最大であるのは、鳥取市下水道事業 (公共下水) の16億81百万円となっている。

エ 企業債残高は1,338億41百万円 (対前年度 △39億52百万円、2.9%の減)

- ・企業債残高の内訳は、下水道事業が742億43百万円 (55.5%)、上水道事業が369億96百万円 (27.6%)、病院事業が216億40百万円 (16.2%)、観光施設事業が9億59百万円 (0.7%)、工業用水道事業が2百万円 (0.0%) となっている。
- ・企業債残高が最大であるのは、鳥取市下水道事業 (公共下水) の478億39百万円となっている。

オ 一般会計からの繰入金は83億6百万円 (対前年度 △2億31百万円、2.7%の減)

- ・一般会計からの繰入金総額のうち、収益的収入への繰入金は59億73百万円、資本的収入への繰入金は23億33百万円となっている。
- ・繰入金の内訳は、下水道事業が45億1百万円（54.2%）、病院事業が32億28百万円（38.9%）、上水道事業が5億8百万円（6.1%）、観光施設事業が68百万円（0.8%）となっている。
- ・繰入金のうち、基準外繰入金は11億21百万円（対前年度△1億90百万円、14.5%の減）であり、そのうち、収益的収入への基準外繰入金は6億37百万円、資本的収入への基準外繰入金は4億84百万円となっている。
- ・基準外繰入金が最大であるのは、鳥取市下水道事業（農業集落）の4億77百万円となっている。

カ 建設改良費は71億60百万円（対前年度 △15億51百万円、17.8%の減）

- ・建設改良費の内訳は、上水道事業が44億20百万円（61.8%）、下水道事業が19億13百万円（26.7%）、病院事業が8億24百万円（11.5%）、工業用水道事業が3百万円（0.0%）となっている。
- ・建設改良費が最大であるのは、米子市水道事業の18億23百万円となっている。

（3）事業別決算概要

区 分	事 業 別 決 算 概 要
上水道事業 (12事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・有収水量が減少傾向にあるため、給水収益も同様に減少傾向。 ・平成26年度決算では、公営企業会計制度の見直しにより、退職給付引当金、賞与引当金の不足額の計上が義務化され、これらの経費を一括計上した結果、特別損失が増加（16億90百万円）したため、一時的な収益状態の悪化を招いた。（純損益△12億53百万円、対前年度16億28百万円の減）
工業用水道事業 (2事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取市工業用水道事業の供給先企業が減少し、給水収益が減少した結果、純損益が赤字に転じた。（純損益△5百万円、対前年度12百万円の減）
下水道事業 (6事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・使用料収入は横ばいであったが、平成26年度決算では、公営企業会計制度の見直しにより、長期前受金戻入（過去の企業債元金償還金に係る繰入金相当額）を一括計上したこと（6億63百万円）、建物の除却が少なかったことから資産減耗費が減少（△2億30百万円）したことにより、純損益が黒字に転じた。（純損益+2億74百万円、対前年度9億56百万円の増）
病院事業 (6事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・医業収益、医業費用ともに増加傾向。 ・平成26年度決算では、公営企業会計制度の見直しにより、退職給付引当金、賞与引当金の不足額の計上が義務化され、これらの経費を一括計上した結果、特別損失が増加（対前年度25億4百万円の増）したため、一時的な収益状態の悪化を招いた。（純損益△19億88百万円、対前年度23億24百万円の減）
休養宿泊事業 (2事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は横ばいだが、特に三朝町休養宿泊事業において宿泊客が減少。長引く景気低迷の影響を受け、営業収益は減少傾向にあり、事業全体では赤字（△1億13百万円）である。 ・平成26年度決算では、公営企業会計制度の見直しにより、退職給付引当金、賞与引当金の不足額の計上が義務化され、三朝町休養宿泊事業においてこれらの経費を一括計上した結果、特別損失が増加（82百万円）したため、一時的な収益状態の悪化を招いた。（純損益△1億13百万円、対前年度80百万円の減）